

子どもたちの15年間の豊かな育ちと 地域・学校相互の活性化を志向して

～由宇地域協育ネットの取組について～

【岩国市 由宇中学校区】

地域の概要

岩国市由宇地域は山口県東部に位置し、瀬戸内海に臨み温暖な気候です。江戸時代の廻船業、大正～昭和時代の繊維工業、農業、漁業が町の経済基盤を支えてきましたが、その停滞に伴い、近年はベッドタウン化しています。小学校は3校（由宇、神東、由西）、中学校1校、幼稚園・保育園が4園（ちどり幼稚園・保育園、由宇保育園、清華保育園）が設置されています。高齢化率は31.1%（平成23年1月）で少子化も進行しています。

| | | |
|--------------------------|-----------|------|
| 人口 | 8,874人 | |
| 世帯数 | 3,791世帯 | |
| 対象校・園 及び 園児・児童・生徒数 | 由宇中学校 | 226人 |
| | 由宇地域小学校3校 | 420人 |
| | 由宇地域幼・保育園 | 270人 |

組織の内容

由宇地域は、岩国市に合併する以前の由宇町制の頃より、教育・文化・スポーツの振興に力を入れ、自主・独立の気風に満ちた、先駆的な取組を行ってきました。特に総合型地域スポーツクラブ「ゆうスポーツクラブ」の創設（平成13年4月）や由宇文化協会の積極的な活動、幼保・小・中の連携を推進する由宇学校教育連絡協議会の存在、学校安全ボランティアの活躍（平成22年度文部科学省学校安全ボランティア活動奨励賞、66名登録）に代表されるように、地域住民の自主性と学校・園の連携を目的とする組織の存在により、「地域の子どもは地域で育てる」意識が高い地域といえます。



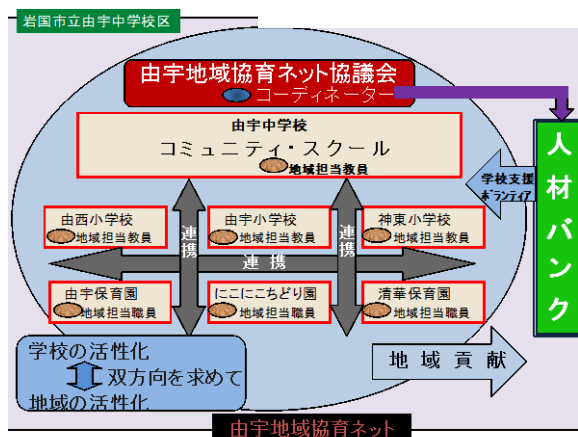
学校安全ボランティア

また、元来そのような組織を具体的に活用しての授業・学校行事支援（由宇文化協会と学校）や部活動支援（ゆうスポーツクラブと由宇中学校）を展開してきた経緯があります。そうした経緯に着目して、コミュニティ・スクールの指定を受けた由宇中学校の推進体制を核とする形で、由宇地域協育ネットの構想をうちたて、推進に向けて協議を重ねているところです。

由宇地域協育ネットのねらいとしては、由宇地域の子どもたちの15年間を見据えて地域全体が学びの場であるという認識のもと、

- ・ 自立する力の育成
- ・ 学校・園と地域の相互活性化

を掲げています。今年度は由宇地域協育ネットの考え方やねらいの共有と共通理解とともに、組織作りに重点を置いて準備を進めています。推進母体となる協議会の構成は、由宇中学校コミュニティ・スクール推進委員4名、由宇文化協会会長、岩国西商工会副会長と由宇地域小・中学校長、園長となっています。



- 由宇地域協育ネット協議会推進委員**
- | | |
|------------------------|----------------------|
| ①コーディネーター | H. 24. 1. 18 現在 |
| ②由宇中学校コミュニティ・スクール推進委員長 | |
| ③由宇スポーツクラブ会長 | 由宇中学校コミュニティ・スクール推進委員 |
| ④主任民生児童委員 | |
| ⑤由宇文化協会会長 | |
| ⑥岩国西商工会副会長 | |
| ⑦由宇地区小・中学校長・園長 | 7名 |
| ⑧岩国市教育委員会担当者 | 2名 |

主な活動の紹介

- 由宇地域協育ネット構想の周知・広報及び組織作り
 - ・各学校・園長への説明、共通理解（地域校長会や各学校・園への訪問を通して）
 - ・コミュニティ・スクール推進委員への説明（協議会を通して）
 - ・地域関係団体、任意団体等由宇地域住民への説明（各種研修会、総会を通して）
- 地域人材やゲストティーチャーを招いての学校支援（教職員や地域住民への啓発・広報も含めて）
 - ・学習支援…家庭科支援（ミシン・裁縫・調理）、体育実技支援（ゆうスポーツクラブとの連携による文科省スポーツコミュニティ促進事業とのかかわりでトップアスリートを招いて）
総合的な学習の時間支援（中学校文化祭における郷土学習、陶芸指導支援など）
 - ・安全支援…登下校の見守り（学校安全ボランティア）
 - ・キャリア教育支援…職場体験学習や職業講話
 - ・中学生ボランティア事業の展開（岩国市青少年育成市民会議事業との連携による）
 - ・その他…読み聞かせ、手話教室、野鳥観察、音楽鑑賞教室の実施など



〈トップアスリートを招いて〉



〈各種研修会での説明・広報〉



〈文化協会手芸サークルの授業支援〉

今後の取組



現在は由宇地域協育ネット構想の構築に向けて組織を固め、体制の確立をめざして協議会を設立し、県教委と市教委を交えて協議を重ねています。

平成 24 年度は緊密な小中連携をめざしている由宇地区校長会を協議会の作業部会と位置づけ、まず人材バンクづくりに着手します。

組織固めはこれからですが、まず活動してみて、その方法や効果について検証しながらよりよい支援体制を構築していきます。

コーディネーターさんにインタビュー

Q：コーディネーターをするようになったきっかけは何ですか？

A：由宇中学校の校長先生から依頼がありました。

Q：コーディネーターとして、この地域協育ネットに期待することは何ですか？

A：コミュニティ・スクールの推進委員として協議を重ねながら、平成 23 年度「地域とともにある学校づくり」協議会（熊本会場）他研修会に参加して、具体的なイメージが湧いてきました。新たな取組として考え方を広め、有効なネットワークの形成に尽力したいと思います。